



## 「話す」「書く」力の育成を 府立高校の英語教育 残り2回の申請を全力で支援 日本遺産の認定へ

—加治木府議の9月定例会の質疑・質問より



▲教育常任委員会で質疑する加治木府議

加治木一彦府議は10月12日の大阪府議会教育常任委員会で、府立高校の英語教育や日本遺産などについて質疑・質問をしました。概要は以下の通りです。

●大阪府は2019年度以降の**高校の英語教育**について、有識者の検討会議を設置しました。在籍校によらず意欲のある生徒を支援する方策や、高校生の海外研修の充実、生徒の英語力を客観的に測定する方法などに関して意見があったそうです。

また、現在の高校1年生が大学受験をする2020年度から始まる大学入学共通テストで、英語は民間の試験の活用がなされます。「話す」「書く」力を育成し、府立高校の全生徒が各自の目標や状況に応じて活躍できるよう英語教育を充実したい、との答弁がありました。

●**日本遺産**は伝統文化や文化財を通して地域の活性化を目指すために文化庁が始めました。大阪府と奈良県にまたがる形で「1400年

に渡る悠久の歴史を伝える『最古の国道』～竹内街道・横大路(大道)」があります。平成29年度に認定を受け、街道をバスでめぐらせる催しは好評だったそうです。観光ボランティアの育成など民間主導で地域活性化への基盤ができつつあるそうです。

文化庁の方針で申請できる機会があと2回しかないため、認定を得るための審査はより厳しくなることが見込まれます。府内で6市が申請の準備をしており、府は他地域の好事例も参考に認定に向け、全力で支援するとのことでした。



このほか、府内中学校のチャレンジテスト、日本語指導が必要な子供達への取り組み、支援教育の充実などについて質疑しました。

この日の様子は大阪府議会ホームページの動画配信でご覧いただけます。



大阪府議会ホームページ

▶ [http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai\\_giji/toppage/index.html](http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html)

## 大阪の玄関口にふさわしいまちづくりへ協議会設置 外国人旅行者向けに観光案内所新設を 新大阪駅の機能強化に向け

10月3日に開かれた大阪府議会本会議の公明党府議団の代表質問で新大阪駅の機能強化に関し、まちづくりと観光の観点から取り上げました。

リニア中央新幹線や北陸新幹線の乗り入れがすでに決まり、8月には国の「都市再生緊急整備地域の候補地域」に新大阪駅周辺地域が選ばれました。

府は①大阪・関西の玄関口にふさわしいゲートウェイ機能②企業が集まり新たなビジネスが生まれる環境③淀川の豊かな自然を生かした都市魅力の向上、など様々な観点からまちづくりを進める必要があるとの認識を示しました。まちづくり方針の検討に当たっては府・市が中心となり、国や経済団体・民間事業者などで構成する協議会が進めていくとのことでした。



▲新大阪駅



一方、新大阪駅は現在でも観光客が多く利用しているにもかかわらず、観光案内所がありません。JR大阪駅の観光案内所「おもてなしステーション」が好評なことに触れ、新大阪駅にもぜひ設置すべきと指摘しました。府は旅行者のニーズ、鉄道事業者など民間事業者の動向も踏まえ、しっかり検討したい、と答弁しました。

